

2011年、スマートフォンの販売台数が急増

「アンドロイド」が大躍進 契約数がiPhoneを超える

文/内田 久貴

2011年、スマートフォン(スマホ)の出荷台数が予想を大きく上回る勢いで伸びている。市場調査会社MM総研では、7月時点で「1986万台」と予測していた2011年度通期のスマホ出荷台数を、10月に「2330万台」と大幅に上方修正した(図1)。これは当初、翌12年度に達成するとしていた出荷台数だ。「市場が急拡大しており来年度以降の数値も上方修正する見込み」(MM総研の横田英明研究部長)という。

この爆発的な“スマホブーム”を牽引しているのは、アンドロイド搭載端末だ(図2)。2010年までは「スマホ=iPhone」という印象が強かったが、2011年にはアンドロイドがグンと存在感を増した。これは携帯電話の契約数で約50%のシェアを持つNTTドコモが、アンドロイド端末に本格的に力を入れ始めたため。ドコモのユーザーが携帯電話を買い替える際、スマホ(アンドロイド端末)を選ぶケースが多いという。人気の機種はサムスン電子の「ギャラクシーSⅡ」とソニー・エリクソンの「エクスペリア アクロ」だ(図3)。

そんなアンドロイド端末は、ユーザー層に偏りがないのが特徴。「iPhoneの利用者は20~30代の若年層や女性が多いのに対し、アンドロイド端末は30~50代とかなり幅広い」(横田部長)。これからは「スマホ=アンドロイド端末」の時代といえそうだ。

■ 予想を上回るペースで携帯電話からの乗り換えが進行中



図1 スマートフォンの「出荷台数」と「契約数の比率」の推移をまとめた。2011年度に出荷台数が急増し、前年比2.7倍、2330万台に達すると予測される。調査会社の予想を大幅に上回るペースで伸びている

■ 2012年はスマホの過半数がアンドロイド端末に



■ アンドロイドブームを引っ張るのは「ギャラクシーSⅡ」と「エクスペリア アクロ」



[注] 契約数の比率は、各年度末(3月末)時点の数値